

憧れのユニフォームで働きたい。

ファッションデザイナーが制服(ユニフォーム)をプロデュースした、あの企業・あのお店。

Design by 東野英樹 (フィグベル)

エプロンの胸部分にペン挿しを配し、お腹部分にもものを入れても突っ張らないマチ付きポケットを配置。インナーはドレスシャツ仕立てで接客業として最低限フォーマルな装いに。スタイリストの坂元真澄さんも製作に関わる。パンツ、靴はスタッフ私物。



▶ ハンドベイクス / カフェ



Design by 尾花大輔 (N.ハリウッド)

動きやすいように、ゆったりとした身幅で仕上げたブルオーバーシャツ。エプロンの前後に4つあるポケットは、伝票のサイズにぴったりなサイズのほか、用途に合わせて使い分けられる大小さまざまなサイズ。共に店頭販売も。パンツ、靴はスタッフ私物。

◀ Pho 321 Noodle bar / フォー専門店



Design by 南 貴之 (グラフィーパー)

ガーデナーにとって“仕事着は、正装”という考えからテラーのディテールを落とし込んだワークベスト。作業効率上がるように、前身頃の丈を伸ばし、グレーに切り替わった部分のポケットを2段にして収納力をアップさせた。ベスト以外はスタッフ私服。

▶ ザ ファーム ユニバーサル / 植物園



Design by 相澤陽介 (ホワイトマウンテニアリング)

歯科用ドリルなどの精密機器メーカー(ナカニシ)で、昨年リニューアルされたユニフォーム。ロゴの位置や、シャツとパンツの切り替えは、F1のチームユニフォームをイメージ。白と青をベースに、医療機器を扱うメーカーとして清潔感のあるカラーリングを意識した。

◀ ナカニシ / 精密機器メーカー

「うちの会社の制服は、有名デザイナーが手がけているんだ」と聞くと、それだけで興味が湧いてきませんか？
実は、ジワジワとその動きが広がっている。N.ハリウッドの尾花大輔さんや、ホワイトマウンテニアリングの相澤陽介さんなど、名だたるデザイナーが、企業や店舗向けに数々のユニフォームを手がけているのだ。その一部が、右の4つの企業で働くスタッフのユニフォーム。カフェ、園芸、工場など、ジャンルはさまざま。どれも普段のコレクションデザインとは異なり、無駄なものは削ぎ落とし、仕事を効率化させるディテールに特化した作り。

唯一、見た目でも共通するのが、社会人としての清潔感もしっかりとキープされていること。働くスタッフしか袖を通せないというのがもったいない、と思うほど、どれも男心をくすぐられるワークウェアとしての魅力を持っている。海外進出を果たしたラーメンチェーン(「風堂」)の制服も同じくデザイナーズ。しかも店舗によって手がけたデザイナーが違ったりか。
これらの通称、「デザイナーズユニフォーム」。その多くが国内外の接客業。実際にお店を訪れた際は、それを手がけたデザイナーと、そこで働くスタッフの仕事ぶりに注目してほしい。

都市別、IPPUDOのデザイナーズコラボ!

福岡発のラーメンチェーン(「風堂 IPPUDO」)で働く海外スタッフたちのユニフォームがクールジャパン! と話題。それもそのはず、都市ごとにゆかりのある日本人デザイナーが、そのユニフォームをプロデュースするからだ。ニューヨーク店は、エンジニアドガーメンツのデザイナー、鈴木大器さんによるもの。パリ店は、ミハラヤスヒロのデザイナー、三原康裕さんが手がける。どちらもワークジャケットと前掛けのセットアップ。海外では「ラーメン」が和食として親しまれるように、どこか日本の伝統を極めた職人のようなムードを感じさせる装いだ。

NY店



広めに取った脇のベンチレーションで夏も快適。

Paris店



日本の伝統的な染色技法を用いた手ぬぐいまで。